

令和元年9月6日

中学校3年生生徒の保護者の皆様

苫小牧市立青翔中学校長 杉本昌史

平成31年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月18日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年7月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも8月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち生徒が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から生徒への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 検査の概要

(1) 実施日

平成31年4月18日（木）

(2) 調査対象

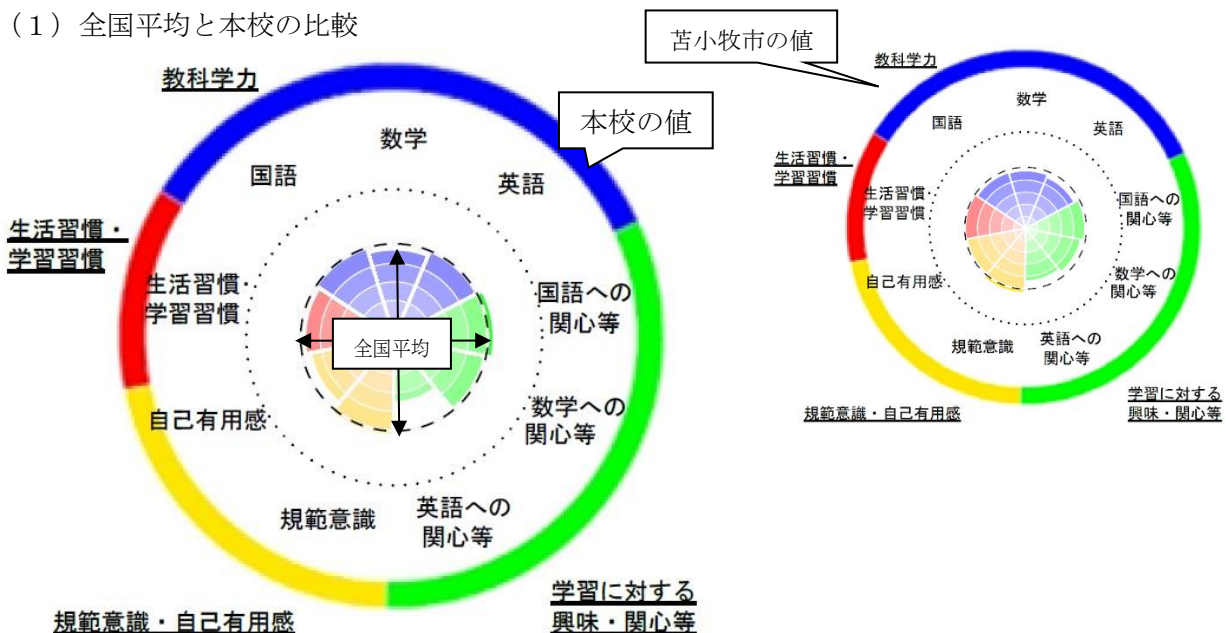
中学校3学年

(3) 検査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、数学、英語の3教科が出題されました。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の他に「話すこと」に関する問題が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する生徒質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

- ・国語においては、平均正答率が全国平均をやや上回っており、正答数の分布では、全国平均とほぼ同様の結果であり、中位層、上位層がやや厚い傾向が見られる。
- ・「投稿の書き方を理解して書く」及び「文章の展開に即して情報を整理して、内容を捉える」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」設問において、無回答率が高く、平均正答率も全国平均を大きく下回っている。
- ・記述式問題（全3問）の平均正答率がいずれも全国平均を下回っており、「書くこと」「書く能力」に大きな課題がある。

(3) 数学科

- ・数学においては、平均正答率が全国平均を下回っており、正答率分布では、全国平均と比べ中～上位層が薄く、下位層が厚い傾向が見られる。
- ・「数の集合と四則計算の可能性について理解している」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・「事柄が成り立つ理由を説明する」「結論が成り立つための前提を考え新たな事柄を見だし、説明する」設問において、無回答率が高く、平均正答率も全国平均を大きく下回っている。
- ・記述式問題（全4問）の平均正答率がいずれも全国平均を下回っており、「数学的な見方や考え方」に大きな課題がある。

(4) 英語

- ・英語においては、平均正答率が全国平均をやや下回っているが、「話すこと」においては、全国平均を大きく上回っている。
- ・英語の正答率分布では、全国平均と比べ中位層が厚く、下位層がやや薄い傾向が見られる。
- ・「説明文の大切な部分を理解する」「簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」設問の平均正答率が全国平均を大きく下回っている。
- ・「聞いて把握した内容について、適切に応じること」、「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること」の設問において無回答率が高いこと等、「書くこと」に課題がある。

(5) 生徒質問紙

学校生活

- ・「1, 2年のときの授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は78.9%（全国74.8%）であった。
- ・「1, 2年のときの授業でICTをどの程度活用したか」の質問に対し、「週1回以上」と回答した生徒の割合は19.4%（全国30.6%）であった。

家庭生活

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対し、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は46.7%（全国50.4%）であった。
- ・「学校の授業以外に、1日当たりどれくらい勉強しているか（塾等も含む）」の質問に対し、1時間以上と回答した生徒の割合は62.8%（全国69.8%）であった。

3 学校の今後の取組について

- 各教科とも「書く」ことや既習事項の「活用」において課題があることから、問題解決的な授業展開、自力解決と集団解決の時間の確保等、授業改善に努める。
- 授業の一単位時間の「課題」の質を高め、ICT機器の活用等により生徒の思考を助ける工夫や学習内容の定着するためのふり返りの時間の確保に努める。